

# 木全ミツの グローバル随想

第8回

## 東日本大震災 復興支援プロジェクト



イラスト・題字：長峯亜里

2011年3月11日に東日本大震災が発生してから6年余。認定NPO法人JKSKは、震災発生直後に首都圏の志の高い女性の皆さんとご相談し、日本の社会では当たり前となっている「男に任せる」という発想をやめ「女性が牽引力<sup>けんりょく</sup>になって行こう」と「JKSK 東日本大震災復興支援プロジェクト（以下P）—女性の活力を最大限生かした日本復興P—JKSK 結結P」を発足させた。

### 被災地と支援者を「結」でつなぐ

東日本大震災からの復興を支援するに当たり、JKSKでは全員で次のような基本認識を確認した。

「これは、ただ単に東北の問題ではない。日本全国、全ての人々が力を、叡智<sup>えいち</sup>を出し合って対峙しなければならぬ国家規模の問題である」「女性が牽引力に」「東北の女性のリーダー（復旧、復興に対峙している）たちが主人公」「首都圏等の我々女性エキスパートは、東京目線を捨てて白紙で臨もう」「まず被災地に身を置き、自分たちの目と足と身体で現状を認識し東北の女性のリーダーたちの話に耳を傾け、話し合い、その場で提案されたPの事業化を模索していこう」「スピード感、実行力、持続性を合言葉に！」。

こうして「JKSK 結結P」がスタートした。

「結」という言葉に私たちが込めた想いと具体的な取り組みは4つ。1つ目が被災地で必死に復旧・復興に携わっている人々との「結」と、被

災地の人々と首都圏などの人々との「結」の維持。2つ目が被災地における定期的な「車座（ワークショップ）・交流会」の開催である。車座・交流会は1泊2日で実施、被災地に身を置き人々の話に耳を傾け、現状・実態を視察・見学・体験する。主として被災地の女性リーダーたち30～40人、および首都圏からの女性エキスパート等20～30人の参加を得て、宮城県、福島県の8カ所で定期的に開催していった。

### 自立と持続を目指す24事業推進

さらに3つ目の取り組みが、東北の女性リーダーたちと首都圏等の女性エキスパートたちによる強いネットワーク化の推進。100人を目標にスタートしたが、すでに300人以上が参画してくれている。ここでは、自然再生、第一次産業の再生、コミュニティビジネス等の個別Pに対し、首都圏の女性エキスパートたちが伴走者として協力し、多くの人々の参加を喚起しながら、資金調達、コミュニティビジネスの立ち上げ、マーケティング、政策提言など復興事業を進めるためのノウハウ、人脈などを提供していく。そして4つ目は車座・交流会等で提案されたプロジェクトの具体的な事業化。20という目標を掲げて取り組んでいったところ、24もの事業・活動を実施することができた。

主な事業は以下の通り。

\*東北のグランマのクリスマスオーナメントP：